

「第2回福岡クルーズ会議」開催報告

福岡市港湾局は、平成27年11月30日（月）、福岡国際会議場にて「第2回福岡クルーズ会議」を開催しました。アジアに寄港する大手クルーズ船社の幹部が集い、アジアクルーズ市場の拡大戦略について語るとともに、急速に発展するクルーズ産業に対する日本の課題を明らかにしました。



左から 日南市 崎田市長, プリンセス・クルーズ トレイ・ヒッキー氏, カーニバル・アジア ミハエル・ウオンガー氏, ロイヤル・カリビアン・インターナショナル ジナン・リウ氏, 福岡市 高島市長, コスタ・クルーズ ブディ・ボック氏, スカイシー・クルーズ エルナン・ジーニ氏, クルーズ船社国際協会 デビッド・ゴウ氏

会議には、船社の他、全国から旅行代理店や港湾関係者など約260名の方々にご参加いただきました。

まず、福岡市長から、福岡市（博多港）でのクルーズ船受入の現状や課題について紹介しました。また、クルーズの満足度を高め、次のステージへステップアップするために、課題解決に向けた取り組み内容や広域連携を図っていくことについてお話しさせていただきました。

引き続き、来賓代表として、国土交通省大臣官房技術参事官 下司 弘之氏及び九州クルーズ振興協議会会長 田中 浩二氏にご登壇いただきました。下司参事官からは、「クルーズ船でお越しいただく訪日外国人の方々が急増し、訪日外国人年間100万人という政府の目標もおおむね達成した」、「クルーズ船を受け入れる港や街で発生する大きな課題を一つずつ解決し、どのようにしてクルーズ振興を行っていき、また、お客様により良いサービスを提供していくのかということを中心に取り組んでいきたい」、田中会長からは、「九州に寄港した外国クルーズ船の回数が過去最高となり、2015年は2014年を大幅に上回る状況である」、「一方で、寄港回数の増加に伴い、バス不足や交通渋滞などの課題が発生しており、解決に向けて関係機関と連携して取り組むことが必要である」とご挨拶いただきました。

●基調講演「アジアクルーズ市場の展望」

クルーズ船社国際協会会長を務めるロイヤル・カリビアン・インターナショナル中国・北アジア・太平洋地区社長 ジナン・リウ氏より、「アジアクルーズ市場の展望」について、ご講演いただきました。「中国クルーズ市場は2020までに400～500万人規模へと成長し、まさに最大の成長率を示す地域である」、「日本は非常に人気のある重要なデスティネーションであるが、インフラ整備が韓国や中国と比べ非常に遅れている」、「福岡は、新たなインフラ整備を行わない限り、2年後には世界で最も混雑する港になってしまうだろう」「インフラ整備への投資というのは、整備段階で効果が見えるものではないが、1次産業から2次産業へ、そして3次産業へと複層的に効果をもたらすものであり、ただ単に狭い意味での経済の恩恵にとどまるものでない」、「日本のインフラ整備に、船社が投資することは一つの選択肢として検討できる」、「クルーズ船が寄港することにより発生する交通渋滞問題は船社も深刻に受け止めており、解決に向けて協力したい」とお話しいただきました。

●パネルディスカッション「寄港地観光の広域連携と商品開発」

インアウト株式会社取締役副社長 帆足 千恵氏をコーディネーターに、クルーズ船社6名、ランドオペレーター1名、寄港地2名をお招きして、「寄港地観光の広域連携と商品開発」をテーマに議論を繰り広げていただきました。

(※登壇者については、プログラムを参照)

クルーズ船社からは、「(コスタ・クルーズ)2016年のコスタ・ビクトリアによる日本発着クルーズでは、初めてクルーズを体験されるお客様の層を開拓するために、終日航海日をゼロにする。5港中4港で乗下船が可能なインターポーティングを取り入れる」、「(ロイヤル・カリビアン・インターナショナル)市場の成熟にあわせ、日数の長い、もっと遠くへ行くクルーズを行いたい」、「(プリンセス・クルーズ)ダイヤモンド・プリンセスは、横浜、神戸を母港としており、日本の四季を活かしてクルーズを実施している。夏の台風の時期には、母港である横浜と神戸をローテーションで利用することにより、台風を避けるようにしている」、「(スカイシー・クルーズ)

現在は、中国人をターゲットにし、チャーターが中心となっている。将来的には、フライ&クルーズや日本発着クルーズも検討している」など、戦略についてお話しいただきました。

日本の寄港地からは、「(日南市)宮崎県内の10市町で広域観光協議会を立ち上げ、岸壁で物産展を行っている。Wi-Fi環境の不足を補うため、Wi-Fiのリュックを背負った市の職員が観光地を歩く「人間Wi-Fi」というものを実施している」、「農業の魅力や森林浴の魅力、海の魅力を体験できる他では見ないような観光プログラムを準備している」、「(福岡市)複数隻のクルーズ船が同時に寄港することで、観光バスによる交通渋滞が発生しており、寄港地観光の時間帯の分散化や行先の分散化が必要である。また、観光バスを使わないような新たなツアーの作成も必要である」、「渋滞が起こらないようなシステムを福岡で実現し、他の地域でも適用できるようなものを考えていきたい」など、受入の状況や課題への取り組みについてご発言いただきました。

ランドオペレーターからは、「(CITS)中国からのお客様は日本の寄港地観光に満足している一方で、自由時間が欲しい、観光時間が足りない、などという声も上がっている」、「リピーターが増えており、新しい目的を求めている方が大勢いる。そのために観光商品自体を作り直さなければならない」、「フリープランや少人数でのプライベートツアーを造成することは、中国の国民性に非常にあった商品を提供することができ、また、交通渋滞や観光ツアーの定番化といったような問題に対し、プラスの動きをすと思う」と、寄港地観光における現状と課題に対する解決策について、お話しいただきました。

その他には、「観光客からランドオペレーターに、そして、ランドオペレーターから自治体にフィードバックをし、コントロールしながら、最適化していく必要がある」、「観光客が寄港地で、様々な選択肢の中で楽しむことができるように、オプションをどのように提供していくかを考えなければならない」、「商品開発は、自治体だけでなく、ランドオペレーターや観光施設、商業施設などの関係者が連携して行っていかなければならない」などの意見もいただきました。

●特別講演「日本のクルーズ市場の拡大に向けて……」

カーニバル・ジャパン株式会社特別顧問 木島 榮子氏に「日本のクルーズ市場の拡大に向けて……」をテーマに、お話しいただきました。「1996年に飛鳥Ⅱが初めて世界一周を行った際は、日本のクルーズ市場に非常に大きなインパクトを与えた一方で、クルーズは100日間と長いもの、しかも、1,800万円もするもの、というイメージがついてしまった」、「①日本船社が新造船を建造すること、②外国船による日本発着クルーズを実施すること、③大型船の中国発着クルーズが寄港すること、という3つの刺激を日本のクルーズ市場に与えることが、市場を拡大・発展させるために必要である。また、インフラ整備や規制緩和もスピード感を持って行っていただきたい」「官民が一体となって、ハード面、ソフト面において、より一層の連携が必要になってくる」と、市場拡大に向けた提案をしていただき、会議を締めくくっていただきました。

【参考：当日プログラム 14:00 開会 17:30 閉会】

14:00-14:05 フォト・セッション（出演者紹介）

14:05-14:15 主催者あいさつ 「Fukuoka CRUISE NEXT ～クルーズを次のステージへ～」
福岡市長 高島 宗一郎

14:15-14:25 来賓あいさつ
国土交通省大臣官房技術参事官 下司 弘之氏
九州クルーズ振興協議会会長 田中 浩二氏

14:25-14:55 基調講演「アジアクルーズ市場の展望」
クルーズ船社国際協会北アジア会長 ジナン・リウ氏

15:10-16:40 パネルディスカッション「寄港地観光の広域連携と商品開発」
＜コーディネーター＞
インアウト株式会社取締役副社長 帆足 千恵氏
＜パネリスト＞
クルーズ船社国際協会北アジア会長
ロイヤル・カリビアン・インターナショナル中国・北アジア・太平洋地区社長
ジナン・リウ氏
ロイヤル・カリビアン・インターナショナル港湾運営・商品管理担当副支社長
ジアンフェン・トン氏
コスタ・クルーズ運営シニアマネージャー ティム・ワン氏
コスタ・クルーズ日本支社長 糸川 雄介氏
プリンセス・クルーズ・アンド・カーニバル海外販売マーケティング副社長
トレイ・ヒッキー氏
上海スカイシー・クルーズ・トラベル COO エルナン・ジーニ氏
シーアイティーエス・ジャパン株式会社福岡支店長 趙 巍氏
日南市長 崎田 恭平氏
福岡市港湾局長 中島 淳一郎

17:00-17:30 特別講演「日本のクルーズ市場拡大に向けて・・・」
株式会社カーニバル・ジャパン特別顧問 木島 榮子氏

問い合わせ先: 福岡市港湾局港湾振興部クルーズ課

電話：092-282-7177 FAX：092-282-7772 Email: cruise@city.fukuoka.lg.jp